

比 爪 館 跡

第 30 次発掘調査報告書

平成25年3月

紫波町教育委員会

比爪館跡

第 30 次発掘調査報告書

紫波町教育委員会

例 言

1 本書は、岩手県紫波郡紫波町南日詰字箱清水地内に所在する比爪館跡（岩手県遺跡地表記 LE77-0087）第30次調査についての、記録保存を目的として実施した緊急発掘調査に関する報告書である。

2 調査要項

- ・調査期間 平成24年7月2日～平成24年7月31日
- ・整理作業 平成24年10月1日～平成25年2月28日
- ・調査面積 275㎡
- ・調査事由 個人住宅建築（建替）

3 調査主体

- ・調査組織 紫波町教育委員会 教育長 柘美 淳
紫波町教育委員会生涯学習課 課長 高橋 正
室長 谷地 和也
主事 岩館 岳
文化財専門調査員 花籠 博文
文化財調査員 鈴木 賢治

- ・調査担当 花籠 博文、鈴木 賢治
- ・本書の執筆は、鈴木賢治が担当、編集は、花籠博文と鈴木賢治が協議し実施した。

4 本報告書の作成にあたっては、下記の方々に御指導、御協力いただいた。（敬称略）

羽柴直人（岩手県立博物館専門学芸員）、似内啓邦（盛岡市教育委員会）、西野 修（矢巾町教育委員会）、（株）プラス測量設計（座標測量、平面実測）、箱崎 武（地権者）

5 土層図は、堆積の状況を重視し線の太さを使い分けた。土層注記は層理ごとに本文でふれ、個々の層位については割愛した。層相の色相観察は、小山・竹原著「新版標準土色帖 日本色研事業（株）」を使用した。

6 各遺構における遺構記号は次の通り。

竪穴住居跡：SI	土坑跡：SK	溝跡：SD	柱穴：SP	その他：SX
----------	--------	-------	-------	--------

7 本書に記載した地形図は、国土地理院発行の2万5千分の1日詰を使用した。

8 座標数値 基1 $X = -51605.976$ $Y = 28307.333$

9 調査で得られた一切の資料、出土遺物・撮影写真・遺構実測図・遺物実測図は紫波町教育委員会において保管している。

10 発掘現場作業員及び室内整理作業員は、次の方々に参加・協力して頂いた。

（現場）箱崎一男、熊谷正男、藤原 求、本間秀明、伊藤 修、古澤貴大、藤原まゆみ、小澤功子、小田中千晶、星 光子（室内作業）藤原まゆみ、小澤功子

目 次

例言

目次

本文目次

表目次

挿図目次

写真図版

抄録

◎表目次

表1 周辺の遺跡一覧表	2
表2 比爪館跡調査次数一覧表	4
表3 各遺構の埋土注記一覧表①	16
表4 各遺構の埋土注記一覧表②	17
表5 出土遺物一覧表	19

◎本文目次

1 遺跡の環境	
(1) 位置	1
(2) 地形と地質	1
(3) 周辺の遺跡	2
2 調査の概要	
(1) 過去の調査	4
(2) 調査にいたる経過	5
(3) 第30次調査の概要	6
3 調査の成果	
(1) 古代の遺構	7
(2) 中世の遺構	10
(3) 出土遺物	18
(4) 調査のまとめ	22

◎挿図目次

第1図 比爪館跡位置図 (1:50,000)	1
第2図 周辺の遺跡位置図 (1:10,000)	3
第3図 比爪館跡調査区域図 (1:2,000)	5
第4図 第30次調査区全体図 (1:150)	6
第5図 竪穴住居跡、池跡(推定)遺構配置図 (1:120)	7
第6図 竪穴住居跡、柱穴全体図 (1:60)	8
第7図 竪穴住居跡、柱穴断面 (1:50)	9
第8図 土塁状マウンド、土塁状遺構トレンチ、 溝跡全体図 (1:80)	12
第9図 土塁状マウンド、土塁状遺構トレンチ、 溝跡断面 (1:50)	13
第10図 土塁状遺構、土坑跡全体図 (1:60)	14
第11図 土塁状遺構、土坑跡断面 (1:50)	14
第12図 池跡(推定)、柱穴全体図 (1:50)	15
第13図 池跡(推定)、柱穴断面 (1:50)	15
第14図 出土遺物① (1:3)	20
第15図 出土遺物② (1:3)	21

◎写真図版

第1図版 第30次調査区 全景
第2図版 竪穴住居跡全景、断面、遺物出土状況
第3図版 土塁状マウンド、溝跡全景、断面、遺物出土状況
第4図版 土塁状遺構、池跡(推定)、土坑跡全景 断面、遺物出土状況
第5図版 出土遺物①
第6図版 出土遺物②

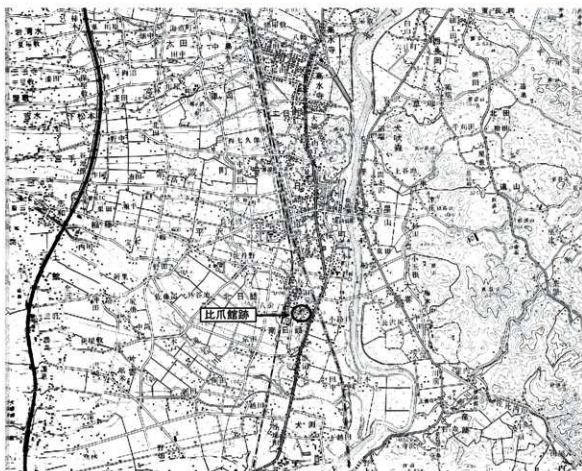
1 遺跡の環境

(1) 位 置

本遺跡は、JR東北線日詰駅の南東約 500m、岩手県紫波郡紫波町南日詰字箱清水地内の中位花巻段丘相当面上に位置する。遺跡範囲は南北約 340m、東西約 320m と推定される。

(2) 地形と地質

本遺跡の東側約 900m には、紫波町の中央を縦断するように北上川が南流している。町内における平地は、西側一帯は奥羽山脈から流れ出て北上川に注ぐ滝名川・大坪川・五内川等の中小河川群によって、広く扇状地や氾濫低地が形成されており、そこに顕著に段丘面が形成されている。また、北上川の東部においては、北上高地の丘陵群との間に狭隘な段丘が形成されるのみである。これら北上川中流域西側の扇状地性段丘は、西根段丘・村崎野段丘・金ヶ崎段丘と大きく三分類されるが、紫波町内では相当するものとして、石鳥谷段丘・二枚橋段丘（花巻段丘相当）・都南段丘と命名された段丘群が知られている。



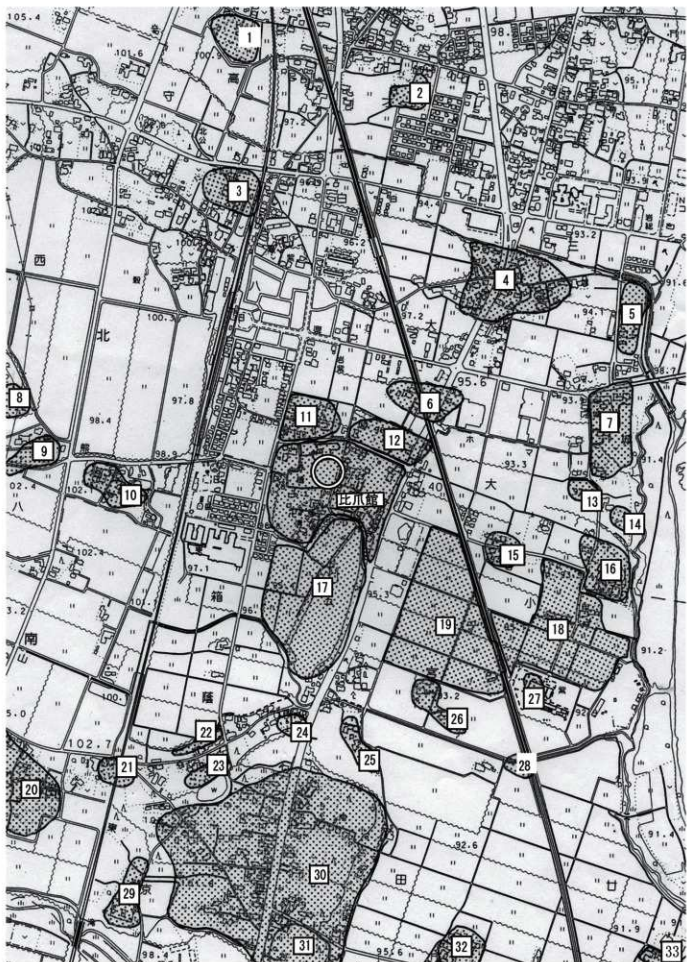
第1図 比爪館跡位置図 (1:50,000)

(3) 周辺の遺跡

当遺跡の北に北日詰東ノ坊遺跡、東に南日詰小路口Ⅰ・Ⅱ遺跡、南に南日詰遺跡などが所在する。また、紫波町内には県指定文化財である川原毛瓦窯跡、町指定文化財である高水寺城跡、陣ヶ岡陣営跡など貴重な遺跡が多く存在する。

次数	遺跡名	住所地	種別	遺構・遺物
1	桜町田頭	桜町字田頭、字高木	散布地	土師器、須恵器
2	才土地	桜町字才土地	集落跡	竪穴住居跡、掘立柱建物跡 土師器、須恵器
3	北日詰下敷	北日詰字下敷	散布地	土師器
4	大日堂	北日詰字大日堂	集落跡	かわらけ
5	北日詰城内Ⅱ	北日詰字城内	集落跡	竪穴住居跡、縄文土器
6	北日詰東ノ坊Ⅱ	北日詰字東ノ坊、下東ノ坊	散布地	土師器、かわらけ
7	北条館	北日詰字城内	城館跡	土師器
8	北日詰外谷地Ⅳ	北日詰字外谷地	散布地	石器
9	北日詰外谷地Ⅴ	北日詰字外谷地	散布地	土師器、陶器
10	北日詰八卦	北日詰字八卦	散布地	土師器、須恵器
11	北日詰東ノ坊Ⅰ	北日詰字東ノ坊	散布地	土師器、須恵器、かわらけ
12	北日詰東ノ坊Ⅲ	北日詰字東ノ坊	散布地	かわらけ
13	北日詰東ノ坊	北日詰字東ノ坊、城内	散布地	土師器、白磁
14	北日詰城内Ⅰ	北日詰字城内	散布地	土師器、須恵器
15	南日詰大銀Ⅰ	南日詰字大銀、小路口	散布地	土師器、かわらけ
16	南日詰大銀Ⅱ	北日詰字城内、南日詰字大銀	散布地	土師器、須恵器
17	五郎沼(比爪館)	南日詰字箱清水	散布地	縄文土器、かわらけ
18	南日詰小路口Ⅰ	南日詰字小路口	散布地	土師器、かわらけ
19	南日詰小路口Ⅱ	南日詰字小路口	散布地	土師器、かわらけ
20	南日詰京田Ⅰ	南日詰字京田	散布地	縄文土器、土師器
21	南日詰京田Ⅱ	南日詰字京田	散布地	土師器、須恵器
22	南日詰藤沼Ⅰ	南日詰字藤沼	散布地	土師器
23	南日詰藤沼Ⅱ	南日詰字藤沼	散布地	土師器
24	伝蛇塚	南日詰字箱清水	散布地	珠州系壺
25	南日詰田中Ⅰ	南日詰字田中	散布地	須恵器
26	南日詰宮崎	南日詰字宮崎	散布地	土師器
27	南日詰小路口Ⅲ	南日詰字小路口	散布地	土師器、かわらけ
28	南日詰田中Ⅱ	南日詰字田中	散布地	土師器
29	南日詰京田Ⅲ	南日詰字京田	散布地	土師器
30	南日詰	南日詰字藤沼、京田、滝名川、田中	散布地	縄文土器、土師器、かわらけ
31	伝善知鳥館	南日詰字滝名川	城館跡	空堀、土塁、柵列、縄文土器
32	南日詰滝名川Ⅴ	南日詰字滝名川	散布地	縄文土器
33	南日詰八坂	南日詰字八坂	散布地	須恵器

表1 周辺の遺跡一覧表



第2図 周辺の遺跡位置図 (1:10,000)

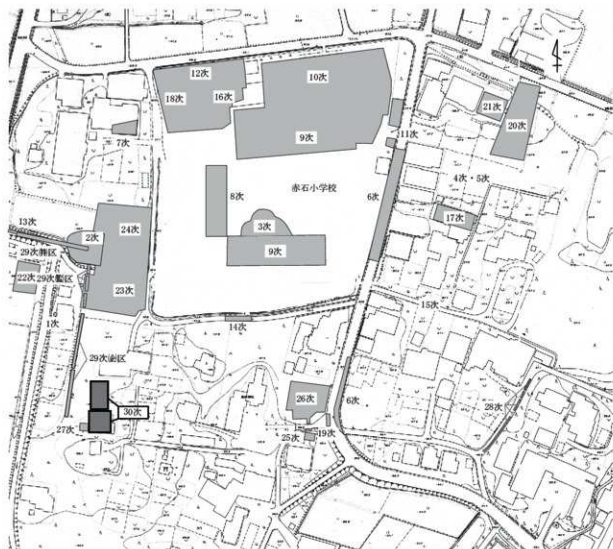
2 調査の概要

(1) 過去の調査

当遺跡は、奥州藤原氏の一族比爪氏の居館跡として周知の所である。考古学的な調査は、1965年の板橋源氏（岩手大学）の発掘調査を始まりとし、第1次調査から第5次調査まで実施している。その後、紫波町教育委員会が主体となり、遺跡の範囲確認調査や開発行為に伴う緊急発掘調査及び試掘調査を、第29次調査まで継続して調査を実施している。これまでに検出された遺構は、掘立柱建物跡23棟、竪穴住居跡69棟、土坑179基、溝跡50条、井戸跡37基、陥し穴27基、焼土遺構・その他12基、柱穴多数などである。

次数	住所地	調査原因	面積	期間	検出遺構
第1	紫波町南日詰箱清水地内（赤石小学校内）	学術調査	30㎡	S40.11.18～ S40.11.21	掘立柱建物跡2、竪穴住居跡2、 土坑2
第2	紫波町南日詰箱清水地内（赤石小学校内）	校庭整備	500㎡	S47.7.20～ S47.7.29	掘立柱建物跡1、竪穴住居跡2、 溝跡4
第3		学術調査			
第4	紫波町南日詰箱清水163地内	学術調査	55㎡	S49.11.6～11.20	竪穴住居跡2、土坑1
第5	紫波町南日詰箱清水160-2地内		63㎡	S50.11.10～11.18	
第6	紫波町南日詰箱清水169-6地内	町道改良	370㎡	S57.7.12～9.7	竪穴住居跡3、土坑9、溝跡6、井戸跡1
第7	紫波町南日詰箱清水地内（赤石小学校内）	校舎建設	356㎡	S60	掘立柱建物跡3、竪穴住居跡3、 土坑6、溝跡7、井戸跡2
第8	紫波町南日詰箱清水地内（赤石小学校内）	校舎建設	355㎡	S62	掘立柱建物跡2、竪穴住居跡1、 土坑3、溝跡2、井戸跡2、陥し穴5
第9	紫波町南日詰箱清水地内（赤石小学校内）	校舎建設	2060㎡	S63.5.16～12.10	掘立柱建物跡9、竪穴住居跡38、 土坑60、溝跡6（大溝1）、井戸跡2、 陥し穴5、焼土遺構10基
第10			2100㎡	H1.3.29～12.12	
第11	紫波町南日詰箱清水地内（赤石小学校内）	校舎建設	76㎡	H2.5.27～6.30	竪穴住居跡2、土坑5、溝跡3、陥し穴1
第12	紫波町南日詰箱清水地内（赤石小学校内）	校舎建設	465㎡	H2.5.27～6.30	竪穴住居跡2、陥し穴2、（*大溝1）
第13	紫波町南日詰箱清水540-4地内	範囲確認	36㎡	H3.9.24～9.30	（*29次調査と重複）
第14	紫波町南日詰箱清水540-1地内	下水道関連	350㎡	H3	なし。（試掘調査）
第15	紫波町南日詰箱清水地内	下水道関連	350㎡	H4	なし。（試掘調査）
第16	紫波町南日詰箱清水地内（赤石小学校内）	校舎建設	415㎡	H4.6.4～7.28	竪穴住居跡3、土坑15、井戸跡2、 陥し穴1
第17	紫波町南日詰箱清水164-2番地内	倉庫建設	167㎡	H5	溝跡2
第18	紫波町南日詰箱清水地内（赤石小学校内）	校舎建設	255㎡	H6.9.15～10.22	土坑9、溝跡2、井戸跡1
第19	紫波町南日詰箱清水164-4番地内	下水道関連	15㎡	H6	溝跡1
第20	紫波町南日詰箱清水160-1番地内	宅地造成	525㎡	H8	土坑13（*大溝1）
第21	紫波町南日詰箱清水161-2地内	個人住宅	123㎡	H9	柱穴（近世）
第22	紫波町南日詰箱清水12.3地内	個人住宅	94㎡	H9	井戸跡1（*大溝1）
第23	紫波町南日詰箱清水地内（赤石小学校内）	町道改良	807㎡	H11	掘立柱建物跡6、竪穴住居跡4、 土坑45、溝跡9、井戸跡7、陥し穴6
第24	紫波町南日詰箱清水地内（赤石小学校内）	校舎建設	702㎡	H12	竪穴住居跡2、土坑1、その他2
第25	紫波町南日詰箱清水190-2番地内	倉庫建設	20㎡	H15.5.9～5.14	竪穴住居跡4、土坑6、溝跡3、焼土遺構1基
第26	紫波町南日詰箱清水169-4地内	集会所建設	216㎡	H16.9.13～11.12	竪穴住居跡1、土坑1、井戸跡1
第27	紫波町南日詰箱清水187-1地内	倉庫建設	28㎡	H21.4.27～5.19	土坑跡1、溝跡3
第28	紫波町南日詰箱清水地内	下水道関連	30.4㎡	H21.06.20～8.30	井戸跡1、土坑跡2、焼土遺構1[※大溝1]
第29	紫波町南日詰箱清水540-4地内（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ区）	下水道関連	72㎡	H23.05.07～8.30	井戸跡1、溝跡4
第29	紫波町南日詰箱清水540-4地内（Ⅲ区）	下水道関連	73.95㎡	H24.05.07～5.23	

表2 比爪館跡調査回数一覧表



第3図 比爪館跡調査区域図 (1:2,000)

(2) 調査にいたる経過

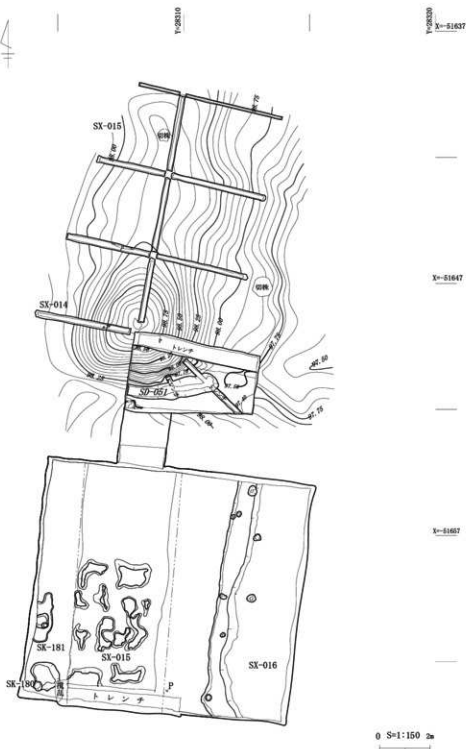
平成24年4月18日、箱崎武氏から比爪館跡地内住宅の建て替えによる、文化財保護法第93条第1項による届け出が提出された。これを受けて協議を開始したが、調査を行うためには旧住宅の解体を待つ必要があった。また、第29次調査で行った進入路に埋設する公共下水道の整備も重複していることから、建築会社を含め三者で協議し発掘調査及び工事のスケジュールを設定した。その結果、平成24年6月中旬旧住宅解体後から7月末までの期間で調査を行う事とし、8月からは直ちに建築場所の地質調査が入ることとなった。なお、建主様からあらかじめ協議があったことから、発掘調査は平成24年度文化財保護事業の補助対象として調査を行った。

(3) 第30次調査の概要

位置 町立赤石小学校の南西約150mの地点で、南北23m、東西12mを調査した。
遺構検出は、黒褐色土層のⅢ層上にて実施した。

検出遺構 SI-070 竪穴住居跡1棟、SX-014 土塁状マウンド1基、SX-015 土塁状遺構1基、SX-016 池跡(推定)1面、SK-180、SK-181 土坑跡2基、SD-051 溝跡1条、SP-1～SP-26 柱穴26口である。

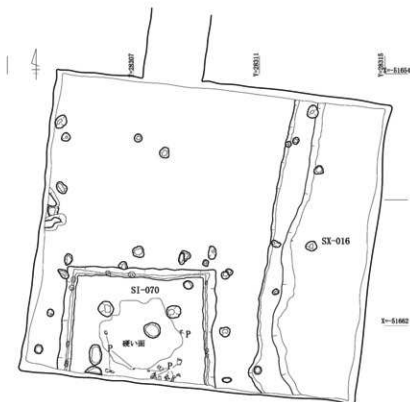
出土遺物 土師器甕、あかやき土器坏・甕、かわらけ、土製品などが出土した。



第4図 第30次調査区 全体図 (1:150)

3 調査の成果

(1) 古代の遺構



第5図 竪穴住居跡、池跡(推定) 遺構配置図 (1:120)

SI-070 竪穴住居跡 (第6図)

位置 調査区南辺側。 **平面形** 隅丸方形。 **主軸方向** N3° EW
規模 東西上端 4.96m。 下端 4.51m。 南北上端 3.52m 以上。 下端 3.35m 以上。
重複関係 なし。 **掘込面** 削平。 **検出面** III層。
埋土 自然堆積と人為堆積。自然堆積はA層～R層に大別し、A層、C層、D層、E層は3層に、B層、I層は2層に細分される。人為堆積はT層とし5層に細分される。A層、B層、C層、F層、H層、I層、J層、O層、R層は黒褐色土を主体に、A2層には粉状バミス (十和田 a 火山灰)、A1層、D2層、J層、に焼土粒を少量含む。D1層、E1層、E2層、G層、K層、N層は黒色土を主体に炭化物を含む。K層、L層～O層は焼土粒少量と炭化物含む。T1～T5は黒褐色土を主体に、地山大ブロックを含む人為堆積である。

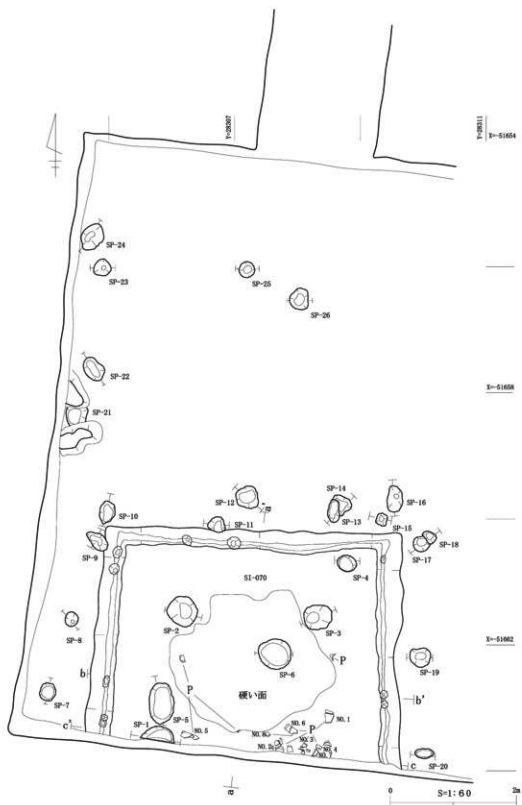
壁の状況 検出面から床面までの深さは0.5mで、壁は外傾して立ち上がる。

床の状況 ほぼ平坦。中央部付近に硬い面がある。粘質シルト層を床面としている。

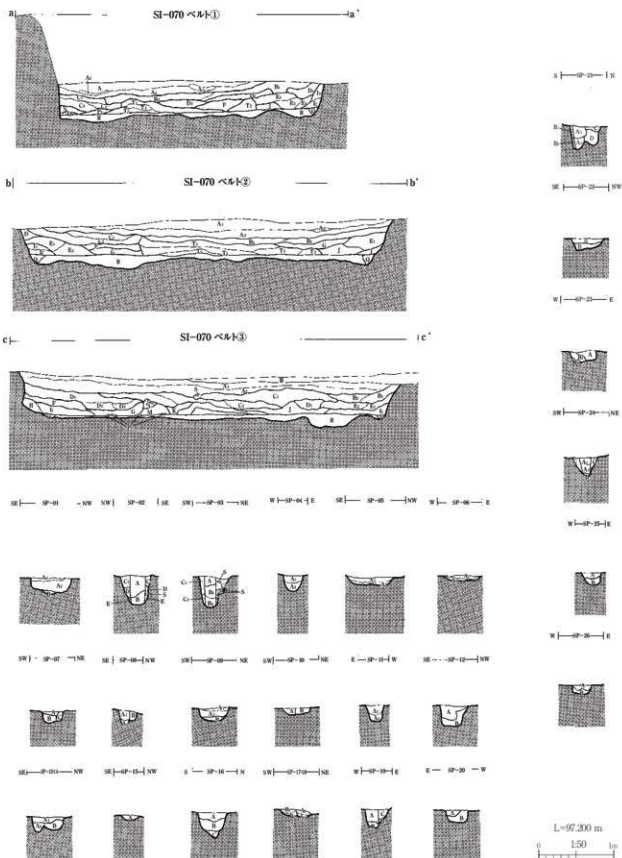
カマド 調査区外。 **燃焼部** 調査区外。

ピット 16口。床面上から6口検出され、支柱穴と考えられるピットは、SP-1～SP-3で柱間は1間×1間である。SP-5、SP-6は、多くの焼土を含む。住居跡の上縁から垂木穴と思われる柱穴が検出され、SP-7～SP-10、SP-12、SP-13、SP-16、SP-17、SP-19、SP-20の10口である。

出土遺物 土師器甕、あかやき土器坏・甕、鉄製品、土製品、炭化物。



第6図 整穴住居跡、柱穴 全体図 (1:60)



第7図 整穴住居跡、柱穴断面(1:50)

(2) 中世の遺構

SX-014 土塁状マウンド (第8図)

位置 調査区中央部。 **平面形** マウンド状。 **主軸方向** N7° W
規模 東西下端 3.51m。 南北下端 4.12m。 高さ 1.49m。
重複関係 SD-052 溝跡に切られる。 **掘込面** 削平。 **検出面** 表土直下。
埋土 人為堆積で、A層～R層に大別される。A層～C層、F層、J層、N層は2層に細分。A層は黒色土を主体に硬くしまる。B層、D層、G層、I層、L層、M層、O層、P層、R層は黒褐色土を主体に、N層は暗褐色土を主体にしまりは中である。C層、E層、J層、K層は黄褐色土を主体にブロック状に硬くしまり、粘りも強である。C層、D層、L層、P層から炭化物、J層、M層、N層、R層から土器片が出土した。
出土遺物 かわらけ、炭化物。

SD-052 溝跡 (第8図)

位置 調査区南側。 **平面形** U字形
規模 全長 3.6m 以上。幅は上端 0.42m～0.66m。下端 0.29m～0.22m。
重複関係 土塁状マウンドを切る。 **掘込面** 削平。 **検出面** II層。
埋土 自然堆積でA層、B層に大別され、A層は2層に細分。A層は黒褐色土を主体にしまりは中である。B層は暗褐色土を主体とし、しまりは中である。B2層は少礫を含む。
壁の状況 壁は外傾して立ち上がる。深さは 0.35m～0.42m を測る。
底面の状況 ほぼ平坦
出土遺物 なし。

SX-015 土塁状遺構 (第8図)

位置 調査区南北中央部。 **平面形** なだらかな台形状。 **主軸方向** N6° W
規模 東西基底部 3.51m、 南北 12.7m 以上、 高さ 0.64m 以上。
重複関係 なし。 **掘込面** 削平。 **検出面** 表土直下。
埋土 人為堆積でA層～W層に大別され、A層、L層は2層に細分。A層、H層、U層は暗褐色土主体に硬くしまる。B層は黒色土を主体に硬くしまり、粘り強である。E層～G層、I層、K層、M層、P層、Q層、S層、T層、V層は黒褐色土主体にE層、Q層、T層は硬くしまる。D層、J層はにぶい黄褐色土主体に硬くしまる。L層、M層、R層は黄褐色土主体に硬くしまる。F層、N層、U層から炭化物、P層、S層から土器が出土した。
出土遺物 かわらけ、土師質土器、炭化物。

SK-180 土坑跡 (第 10 図)

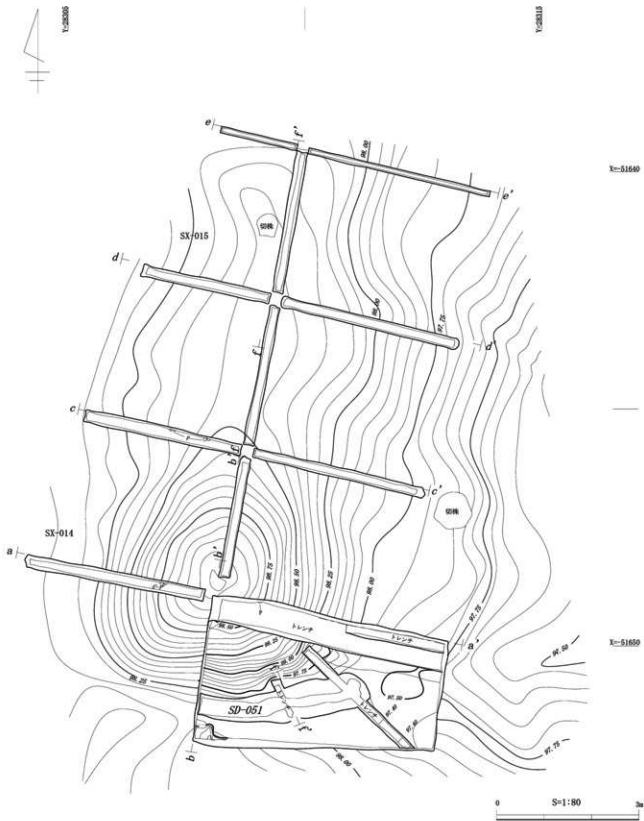
- 位置** 調査区南西部。 **平面形** 不整形円形。 **長軸方向** N13° W
- 規模** 南北上端 11.1m 以上。下端 0.81m 以上。東西上端 11.6m。下端 0.78m。
- 重複関係** なし。 **掘込面** 削平。 **検出面** II 層。
- 埋土** 自然堆積で A 層～B 層に大別され、各 2 層に細分。A 層は黒褐色土を主体にし、しまりは中である。B 層は暗褐色土主体にし、しまりは中である。A 層から多くの土器が出土した。
- 壁の状況** 壁は外傾して立ち上がる。深さは 0.31m を測る。
- 底面の状況** 掘鉢状に窪む。
- 出土遺物** かわらけ、炭化物。

SK-181 土坑跡 (第 10 図)

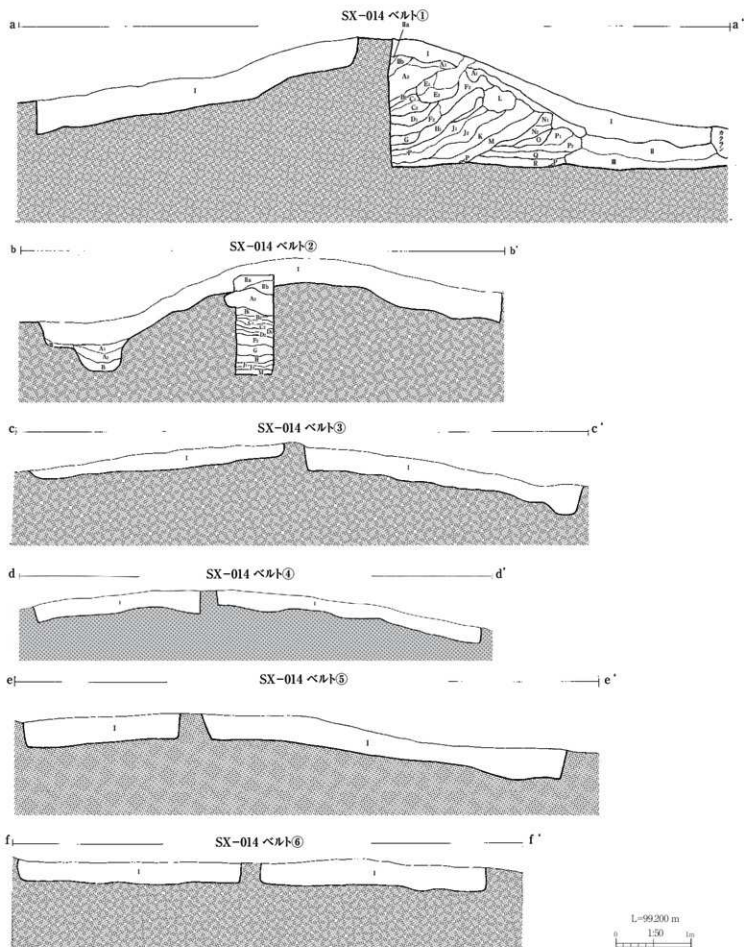
- 位置** 調査区南西部。 **平面形** 不整形円形 **長軸方向** N52° W
- 規模** 南北上端 2.1m。下端 1.91m。東西上端 0.62m 以上。下端 0.59m 以上。
- 重複関係** なし。 **掘込面** 削平。 **検出面** II 層。
- 埋土** 自然堆積で A 層～C 層に大別され、B 層は 2 層に細分。A 層、B 層は黒褐色土を主体にし、しまりは中である。C 層は暗褐色土主体にし、しまりは中である。A 層、B 層から多くの土器が出土し炭化物も含む。
- 壁の状況** 壁はなだらかに外傾して立ち上がる。深さは 0.34m を測る。
- 底面の状況** 南側に行くほど深くなる。
- 出土遺物** かわらけ、炭化物。

SX-016 池跡 (推定) (第 12 図)

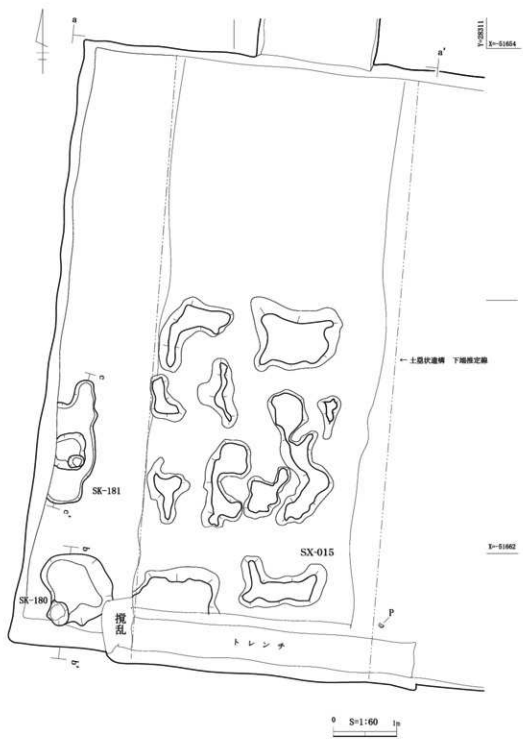
- 位置** 調査区西側。 **平面形** 皿状。 **主軸方向** N7° W
- 規模** 東西上端 3.02m 以上。下端 2.08m 以上。南北 9.22m 以上。
- 重複関係** なし。 **掘込面** 削平。 **検出面** II 層。
- 埋土** 自然堆積と人為堆積。A 層～F 層に大別され A 層・D 層は 2 層に細分する。A 層・E 層は黒色土を主体とし、しまりは中である。B 層は暗褐色土を主体とし、しまりは中である。D 層は明黄褐色土を主体とし、硬くしまる。F 層は明黄褐色土を主体とし、しまりは中である。A 層・B 層・C 層・F 層から土器が出土し少量礫を含む。B 層・C 層は炭化物を含む。F 層は砂質を含む。
- 壁の状況** 壁はなだらかに外傾して立ち上がる。深さは 0.38m 以上を測る。
- 底面の状況** ほぼ平坦であるが、東側に向かって徐々に緩やかに下がって行く。
- 出土遺物** かわらけ、炭化物。



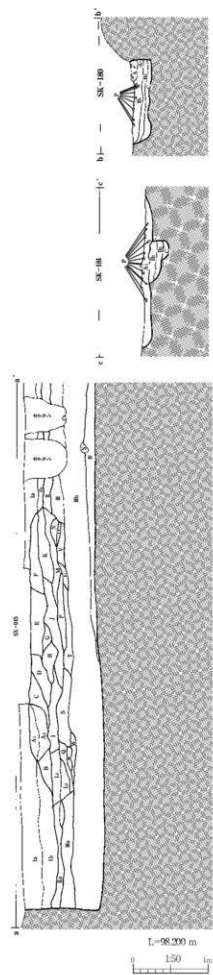
第8図 土壘状マウンド、土壘状遺構トレンチ、溝跡 全体図 (1:80)



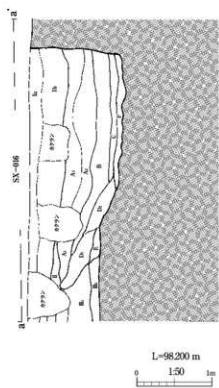
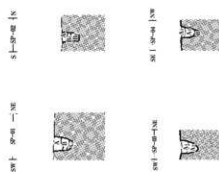
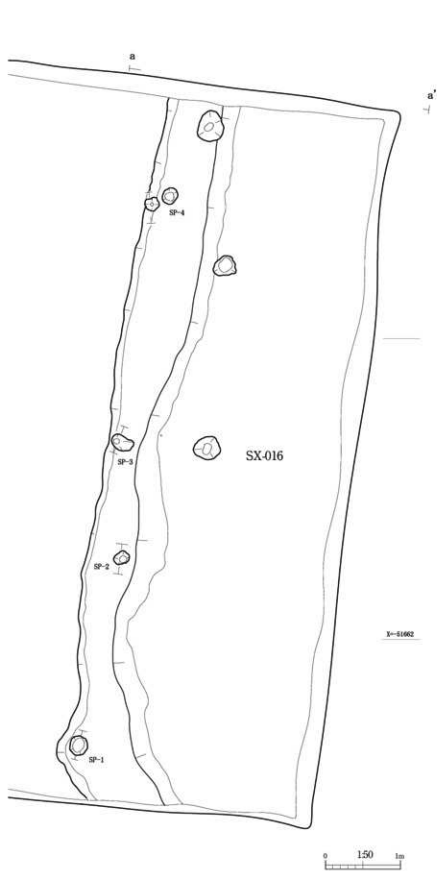
第9図 土塁状マウンド、土塁状遺構トレンチ、溝跡断面 (1:50)



第10図 土塁状遺構、土坑跡 全体図 (1:60)



第11図 土塁状遺構、土坑跡 断面 (1:50)



第12図 池跡(推定)、柱穴 全体図 (1:50)

第13図 池跡(推定)、柱穴 断面 (1:50)

SX-014 土塁状マウンド (東西面・南北面)

I 層	黒褐色土を主体に暗褐色土を粉状～粒状にしまり弱である。	(現在の表土・耕作土)
II 1層	黒褐色土を主体に明黄褐色土を粒状～塊状に礫を含む。	(近世に旧表土)
II 2層	黒褐色土を主体に黄褐色土を粒状～塊状に少礫を含む。	
III 層	黒褐色土を主体に明黄褐色土を粒状～塊状に含む。	(中世の旧表土)
IV 1層	黒褐色土を主体に明黄褐色土を粒状～塊状に硬くしまる。	(古代の旧表土)
A 1層	黒色土を主体に黄褐色土を粒状～塊状に硬くしまる。	
A 2層	黒色土を主体に黒褐色土を粉状～粒状に硬くしまる。	
B 1層	黒褐色土を主体に黄褐色土を粒状～塊状に含む。	(地山ブロック状・大)
B 2層	黒褐色土を主体に黄褐色土を粉状～粒状に含む。	
C 1層	黄褐色土を主体に黒褐色土を粉状～粒状に含む。	(地山ブロック状・中)
C 2層	黄褐色土を主体に暗褐色土を粉状～粒状に炭化物少量含む。	
D 1層	黒褐色土を主体に黄褐色土を粉状～粒状に炭化物少量含む。	
D 2層	黒褐色土を主体に黄褐色土を粒状～塊状に含む。	
E 層	黄褐色土を主体に黒褐色土を粉状～粒状に含む。	(地山ブロック状・中)
F 1層	にぶい黄褐色土を主体に黄褐色土を粒状～塊状に硬くしまる。	(地山ブロック状・大)
F 2層	にぶい黄褐色土を主体に黄褐色土を粒状～塊状に炭化物少量含む。硬くしまる。	(地山ブロック状・大)
G 層	黒褐色土を主体に暗褐色土を粉状～粒状に含む。	
H 層	にぶい黄褐色土を主体に黄褐色土を粒状～塊状に炭化物少量含む。硬くしまる。	(地山ブロック状・中)
I 層	黒褐色土を主体に黄褐色土を粒状～塊状に含む。	
J 1層	黄褐色土を主体に暗褐色土を粉状～粒状に土器片を含む。硬くしまる。	(地山ブロック状・中)
J 2層	黄褐色土を主体に黒褐色土を粉状～粒状に粘り強である。	(地山ブロック状・大)
K 層	黄褐色土を主体に暗褐色土を粉状～粒状に硬くしまり粘り強である。	(地山ブロック状・大)
L 層	黒褐色土を主体に明黄褐色土を粒状～塊状に炭化物少量含む。	
M 層	黒褐色土を主体に黄褐色土を粒状～塊状に土器片を含む。	
N 1層	暗褐色土を主体に黄褐色土を粉状～粒状に含む。	
N 2層	暗褐色土を主体に黄褐色土を粉状～粒状に土器片を含む。	
O 層	黒褐色土を主体に褐色土を粉状～粒状にしまり弱である。	
P 1層	黒褐色土を主体に黄褐色土を粒状～塊状に含む。	(地山ブロック状・中)
P 2層	黒褐色土を主体に黄褐色土を粒状～塊状に炭化物少量含む。	
Q 層	暗褐色土を主体に黄褐色土を粒状～塊状に炭化物少量含む。	(地山ブロック状・大)
R 層	黒褐色土を主体に黄褐色土を粒状～塊状に土器片を含む。	

SD-051 溝跡 西面

A 1層	黒褐色土を主体に明黄褐色土を粒状～塊状に含む。
A 2層	黒褐色土を主体に明黄褐色土を粒状～塊状に少礫を含む。
B 層	暗褐色土を主体に黒褐色土を粉状～粒状に含む。

SX-015 土塁状遺構 北面

A 1層	暗褐色土を主体に黄褐色土を粒状～塊状に含む。	(地山ブロック状・大)
A 2層	暗褐色土を主体に黄褐色土を粒状～塊状に硬くしまり粘り強である。	
B 層	黒色土を主体に明黄褐色土を粒状～塊状に硬くしまり粘り強である。	
C 層	黒褐色土を主体に暗褐色土を粉状～粒状に含む。	
D 層	にぶい黄褐色土を主体に褐色土を粒状～塊状に含む。	(地山ブロック状・中)
E 層	黒褐色土を主体に暗褐色土を粉状～粒状に硬くしまる。	
F 層	黒褐色土を主体に黄褐色土を粒状～塊状に炭化物少量含む。硬くしまる。	
G 層	黒褐色土を主体に黄褐色土を粒状～塊状に含む。	
H 層	暗褐色土を主体に黒褐色土を粉状～粒状に含む。	
I 層	黒褐色土を主体に黄褐色土を粉状～粒状に含む。	
J 層	にぶい黄褐色土を主体に褐色土を粒状～塊状に硬くしまる。	(地山ブロック状・大)
K 層	黒褐色土を主体に黒色土を粉状～粒状に含む。	
L 1層	黄褐色土を主体に黒褐色土を粉状～粒状に硬くしまる。	(地山ブロック状・大)
L 2層	黄褐色土を主体に黒褐色土を粉状～粒状に硬くしまる。	(地山ブロック状・中)
M 層	黄褐色土を主体に黒色土を粉状～粒状に含む。	(地山ブロック状・大)
N 層	黒褐色土を主体に褐色土を粒状～塊状に炭化物少量含む。	
O 層	黄褐色土を主体に褐色土を粉状～粒状に硬くしまる。	(地山ブロック状・大)
P 層	黒褐色土を主体に黄褐色土を粒状～塊状に含む。	
Q 層	黒褐色土を主体に黄褐色土を粒状～塊状に硬くしまる。	
R 層	黄褐色土を主体に黒褐色土を粉状～粒状に硬くしまる。	
S 層	黒褐色土を主体に褐色土を粉状～粒状に含む。	
T 層	黒褐色土を主体に明黄褐色土を粒状～塊状に硬くしまる。	(地山ブロック状・大)
U 層	暗褐色土を主体に黄褐色土を粒状～塊状に含む。	
V 層	黒褐色土を主体に明黄褐色土を粒状～塊状に含む。	
W 層	褐色土を主体に黄褐色土を粒状～塊状に含む。	

表3 各遺構の埋土注記一覧表①

SX-016 池跡(推定) 北面

I 層	黒褐色土を主体に暗褐色土を粉状～粒状にしまり弱である。	(現在の表土・耕作土)
II 層	黒褐色土を粉状～粒状に硬くしまる。	(近世の表土)
A1層	黒褐色土を主体に褐色土を粉状～粒状に含む。	
A2層	黒褐色土を主体に褐色土を粉状～粒状に土器、少礫を含む。	
B 層	褐色土を主体に黒褐色土を粉状～粒状に土器片、少礫、炭化物を多く含む。	
C 層	黒褐色土を主体に褐色土を粉状～粒状に土器片、少礫、炭化物を多く含む。	
D1層	明黄褐色土を主体に黒褐色土を粉状～粒状に硬くしまる。	(地山ブロック状・大)
D2層	明黄褐色土を主体に黒褐色土を粉状～粒状に硬くしまる。	(地山ブロック状・中)
E 層	黒色土を主体に褐色土を粉状～粒状に含む。	
F 層	明黄褐色土を主体に褐色土を粉状～粒状に土器、少礫、砂質を含む。	

SK-181 土坑跡 東面

A1層	黒色土を主体に明黄褐色土を粒状～塊状に土器片を多く含む。硬くしまる。
A2層	黒色土を主体に明黄褐色土を粒状～塊状に土器を含む。
A3層	黒色土を主体に黄褐色土を粒状～塊状に含む。
B 層	暗褐色土を主体に黄褐色土を粒状～塊状に含む。

SK-181 土坑跡 東面

A 層	黒色土を主体に暗褐色土を粉状～粒状に土器を多く含む。硬くしまる。
B1層	黒色土を主体に黄褐色土を粒状～塊状に土器片を含む。硬くしまる。
B2層	黒色土を主体に黄褐色土を粒状～塊状に含む。
C 層	暗褐色土を主体に明黄褐色土を粒状～塊状にしまりは弱である。

SI-070 竪穴住居跡

A1層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粉状から粒状に含む。	
A2層	黒褐色土を主体に、灰白土を粒状から塊状に含む。粉状バミス(十和田a火山灰)を含む。	
A3層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状から塊状に焼土粒を少量含む。	
B1層	暗褐色土を主体に、黄褐色土を粉状から粒状に含む。	
B2層	暗褐色土を主体に、黄褐色土を粉状から粒状に炭化物を少量含む。	
C1層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粉状から粒状に含む、硬くしまり結りは強である。	
C2層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粉状から粒状に含む。	
C3層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粉状から粒状に含む、硬くしまり粘る。	
D1層	黒色土を主体に、明黄褐色土を粒状から塊状に炭化物を少量含む。硬くしまり粘る。	
D2層	黒色土を主体に、明黄褐色土を粒状から塊状に含む硬くしまり粘る。	
D3層	黒色土を主体に、明黄褐色土を粒状から塊状に焼土粒を少量含む。硬くしまり粘る。	
E1層	褐色土を主体に、明黄褐色土を粉状から粒状に炭化物を少量含む。	
E2層	褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状から塊状に含む。	
E3層	褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状から塊状に炭化物を少量含む。	
F 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粉状から粒状に含む。	
G 層	黒色土を主体に、明黄褐色土を粉状から粒状に土器を含む。	
H 層	黒褐色土を主体に、暗褐色土粉状から粒状に硬さは軟でしまりは弱である。	
I1層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粉状から粒状に含む。	
I2層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粉状から粒状に焼土粒を少量含む。硬くしまる。	
J 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粉状から粒状に含む。	
K 層	黒色土を主体に、黄褐色土を粉状から粒状に焼土粒と炭化物を少量含む。	
L 層	黄褐色土を主体に、黒褐色土を粉状から粒状に焼土粒と炭化物を少量含む。硬くしまる。	
M 層	褐色土を主体に、暗褐色土粉状から粒状に焼土粒と炭化物を少量含む。硬くしまる。	
N 層	黒色土を主体に、明黄褐色土を粉状から粒状に焼土粒と炭化物を少量含む。硬くしまる。	
O 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粉状から粒状に焼土粒と炭化物を少量含む。硬くしまる。	
Q 層	明黄褐色土を主体に、黒褐色土を粉状から粒状に含む。	
R 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粉状から粒状に土器と炭化物を少量含む。	
T1層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状から塊状に含む。	(地山ブロック状・大)
T2層	明黄褐色土を主体に、黒褐色土を塊状に含む。硬くしまる。	(地山ブロック状・大)
T3層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状から塊状に含む。硬くしまる。	(地山ブロック状・中)
T4層	明黄褐色土を主体に、黒褐色土を塊状に含む。	(地山ブロック状・大)
T5層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状から塊状に焼土粒を少量含む。	(地山ブロック状・中)

表4 各遺構の埋土注記一覧表②

(3) 出土遺物

今回の調査では、かわらけがコンテナ 10 箱、あかやき土器坏・甕と土師器甕合わせてコンテナ 2 箱、土製品 1 点が出土した。その内、実測可能な出土遺物 41 点を図化した。

1) かわらけ (第 14 図)

SX-014 土壘状マウンドから 5 点。3、15、はロクロ成形で口径が 7.8cm~14.3cm を測る。いずれも回転糸切無調整で、B の底面にスノコ痕が認められる。23、24、33 は手づくねで、口径が 9.2cm~9.8cm を測る。

SX-015 土壘状遺構のトレンチから 12 点。1、2、6、9~11、17、25、26、2 はロクロ成形で口径が 6.8cm~8.8cm を測る。10 は完形で口縁部に煤附着、16、22 は口縁部を意図的に打ち欠いたと思われる円盤状の底部である。いずれも回転糸切無調整である。29 は手づくねで口径が 11.8cm を測る。

SX-015 土壘状遺構から 6 点。5、13、18、20 はロクロ成形で口径が 7.8cm~9.0cm を測る。34、45 は土師質土器で器壁は厚く口径が 12.9cm~14.3cm を測り、口縁部に煤附着する。いずれも回転糸切無調整である。

SX-016 池跡 (推定) から 6 点。4、8、19、はロクロ成形で口径が 7.9cm~8.9cm を測る。いずれも回転糸切無調整である。28 は手づくねで口径が 12.0cm を測る。32 は土師質土器で体部から底部が残存し、高台をもつ。36 は内面にヘラミガキが施されている。

SK-180 土坑跡から 4 点。7、12、14 はロクロ成形で口径が 8.1cm~8.8cm を測る。14 の底面にスノコ痕が認められる。27 は口縁部を意図的に打ち欠いたと思われる円盤状の底部である。いずれも回転糸切無調整である。

SK-181 土坑跡から 3 点。21、30、31 はロクロ成形で口径が 8.2cm~9.0cm を測る。いずれも回転糸切無調整である。

2) あかやき土器 (第 15 図)

SI-070 竅穴住居跡から 3 点。37、40 は甕で口径が 21.8cm~22.8cm を測る。37 は外面にヘラナデ、40 は、外面タタキ痕、内面カキメを施す。38 は坏で、口径が 12.9cm を測る。

3) 土師器 (第 15 図)

SI-070 竅穴住居跡から 1 点。41 は甕で口径が 15.6cm を測る。口縁部にヨコナデ、内外面ヘラナデを施す。

3) 土製品 (第 15 図)

SI-070 竅穴住居跡から 1 点。39 は土鍾で全長 5.2cm、幅 2.4cm、孔径 0.8cm を測る。葉巻型で中央部に膨らみをもつ。

◎ かわらけ

番号	遺構名	出土位置	成 形	法 量 (cm)			残存率 (%)	備 考
				口径	底径	器高		
1	SX-015	A1層	ロクロ	6.8	6.0	1.6	70%	回転糸切無調整。トレンチ
2	SX-015	A1層	ロクロ	7.8	5.9	1.8	35%	回転糸切無調整。トレンチ
3	SX-014	II層	ロクロ	7.8	5.6	1.8	85%	スノコ痕。回転糸切無調整。
4	SX-016	B層	ロクロ	7.9	5.4	2.1	75%	回転糸切無調整。
5	SX-015	S層	ロクロ	7.8	4.9	2.1	65%	回転糸切無調整。
6	SX-015	A1層	ロクロ	8.2	6.2	1.9	30%	回転糸切無調整。トレンチ
7	SK-180	A1層	ロクロ	8.1	5.8	2.2	40%	回転糸切無調整。
8	SX-016	B層	ロクロ	8.2	5.6	2.0	95%	回転糸切無調整。
9	SX-015	A1層	ロクロ	8.2	6.0	1.7	70%	回転糸切無調整。トレンチ
10	SX-015	A1層	ロクロ	8.1	5.1	2.0	100%	煤付着。回転糸切無調整。トレンチ
11	SX-015	A1層	ロクロ	7.8	5.9	1.6	80%	回転糸切無調整。トレンチ
12	SK-180	A1層	ロクロ	8.8	6.4	1.9	55%	回転糸切無調整。
13	SX-015	L2層	ロクロ	8.2	6.0	1.9	60%	回転糸切無調整。
14	SK-180	A2層	ロクロ	8.3	5.6	1.7	40%	スノコ痕。回転糸切無調整。
15	SX-014	S層	ロクロ	8.1	5.6	2.0	95%	回転糸切無調整。
16	SX-015	A1層	ロクロ	-	5.9	-	60%	円盤状。回転糸切無調整。トレンチ
17	SX-015	A1層	ロクロ	8.8	6.2	1.8	45%	回転糸切無調整。トレンチ
18	SX-015	S層	ロクロ	8	6.6	1.9	35%	回転糸切無調整。トレンチ
19	SX-016	B層	ロクロ	8.9	6.1	2.1	40%	回転糸切無調整。
20	SX-015	Q層	ロクロ	9.0	5.2	2.1	60%	スノコ痕。回転糸切無調整。トレンチ
21	SK-181	A2層	ロクロ	8.2	6.2	1.8	70%	回転糸切無調整。
22	SX-015	A1層	ロクロ	-	5.8	-	60%	円盤状。回転糸切無調整。トレンチ
23	SX-014	B層	手づくね	9.2	-	2.0	25%	
24	SX-014	C1層	手づくね	9.8	-	1.8	30%	煤付着。
25	SX-015	A1層	ロクロ	8.7	5.4	1.4	55%	回転糸切無調整。トレンチ
26	SX-015	A1層	ロクロ	8.8	5.3	1.9	60%	回転糸切無調整。トレンチ
27	SK-180	A2層	ロクロ	-	5.1	-	60%	円盤状。回転糸切無調整。
28	SX-016	B2層	手づくね	12.0	-	2.3	25%	
29	SX-015	A1層	手づくね	11.8	-	3.1	30%	トレンチ。
30	SK-181	A2層	ロクロ	9	6.0	1.9	70%	回転糸切無調整。
31	SK-181	A1層	ロクロ	8.9	5.4	2.0	85%	回転糸切無調整。
32	SX-016	B層	ロクロ	-	5.1	-	15%	土師質土器。柱状高台のみ。
33	SX-014	J1層	手づくね	14.7	-	3.1	40%	マウンドトレンチ
34	SX-015	P層	ロクロ	14.3	7.4	4.2	85%	土師質土器。煤付着。ヨコナデ。
35	SX-015	S層	ロクロ	12.9	5.6	4.9	90%	土師質土器。煤付着。ヨコナデ。
36	SX-016	B層	ロクロ	-	5.9	-	50%	土師質土器。高台をもつ。 内面ヘラミガキ。

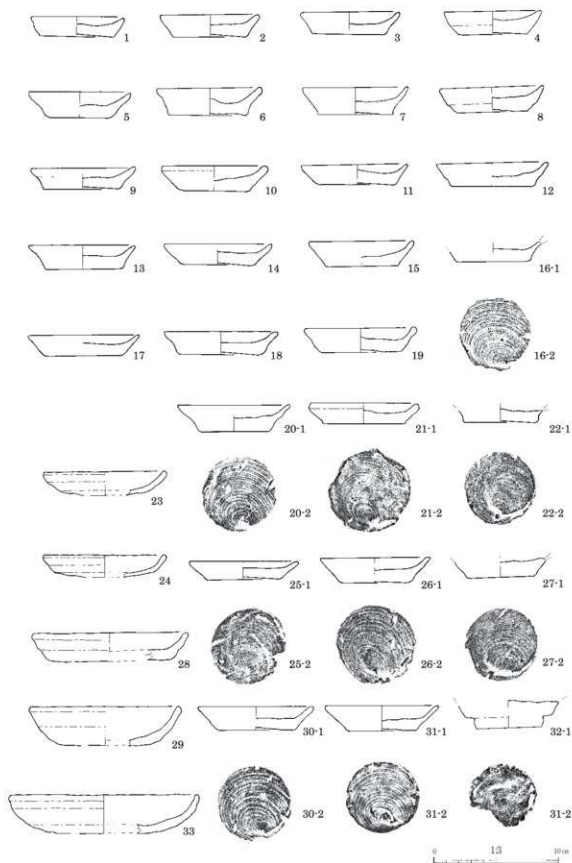
◎ 坏、甕

番号	遺構名	出土位置	種別	器種	法 量 (cm)			残存率 (%)	備 考
					口径	底径	器高		
37	SI-070	床直	あかやき	甕	21.8	-	-	35%	外面ヘラナデ。
38	SI-070	床直	あかやき	坏	12.9	-	-	70%	
40	SI-070	床直	あかやき	甕	22.8	-	-	30%	外面タタキ。内面カキメ。
41	SI-070	床直	土師器	甕	15.6	-	-	25%	内外面ヘラナデ。

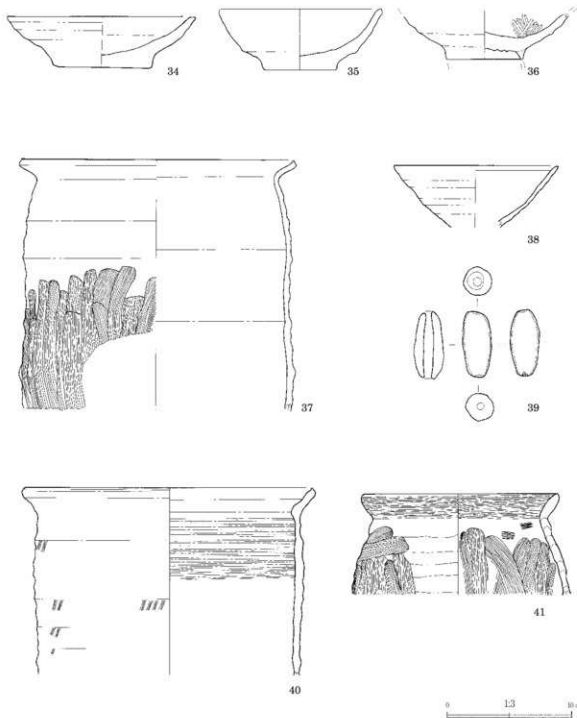
◎ 土製品

番号	遺構名	出土位置	器 種	法 量 (cm)			残存率 (%)	備 考
				全長	幅	孔径		
39	SI-070	A2層	土 錘	5.2	2.4	0.8	100%	膨らみをもつ。

表5 出土遺物一覧表



第14図 出土遺物① (1:3)



第15図 出土遺物② (1:3)

(4) 調査のまとめ

比爪館跡は、第29次調査Ⅲ区（平成24年度）まで実施して来た。第30次調査は、本遺跡の南端に当たる場所で、周辺の地形は微高地に位置する。

今回検出された遺構は、SI-070 竪穴住居跡1棟、SX-014 土塁状マウンド1基、SX-015 土塁状遺構1基、SD-051 溝跡1条、SX-016 池跡（推定）1面、SK-180、SK-181 土坑跡2基、SP 柱穴29口を検出した。遺物は、あかやき土器環・甕・土師器甕がコンテナ1箱、かわらけがコンテナ10箱、土製品1点、鉄製品1点などが出土した。

時期は、出土遺物の形態状況から、竪穴住居跡、柱穴26口は平安時代（10世紀頃）、土塁状遺構、土塁状マウンド、溝跡、柱穴4口等は、平安時代中期～末期（12世紀頃）に属すると思われる。

1) SI-070 竪穴住居跡

平安時代の竪穴住居跡。遺構は調査区南側に2/3残存し、カマドは調査区外で検出できなかったが、南カマドと推測される。堆積状況は22層に大別される。中央部下層付近に地山ブロック大が混入する人為堆積、上層は自然堆積である。A2層には、粉状バミス（十和田a火山灰）が混入する。竪穴住居跡の床面南辺から、あかやき土器環・甕と土師器甕がまとまって出土し、床面中央部は固くしまっていた。

竪穴住居跡の上縁から、垂木穴と思われる柱穴が10口検出された。多くの竪穴住居跡の調査例では、垂木穴は後世の削平や攪乱で検出されないことが多いが、今調査では、残存状況が良く貴重な資料が得られた。

2) SX-014 土塁状マウンド

土塁状マウンドを調査するにあたっては、地権者の意向を受けて、遺構保存を最優先に精査を進めた。現代の表土（マウンドの1/4南東部）を除去し、その位置の東西に幅0.5mのトレンチを入れて、内部の様子と土層観察を実施した。基底部は、堆積土Ⅱ層（11～12世紀前半）と堆積土Ⅲa層・Ⅲb層（10世紀後半以前）の旧表土を掘り込んで構築されていることがわかった。埋土堆積状況は、掘り込み面はほぼ平行に軽く版築され、徐々にマウンドの基底部の中心に向けて、約24度の傾斜で版築しながら構築されていた。頂頭部の一部（縦穴掘り込み）には盗掘の痕跡があった。また、このマウンドは以前から経塚、古墳、竈跡など様々な憶測を呼んでいたことから、最小限の内容確認に留め、慎重に精査を実施した。その結果、目的は不明だが土塁の上に版築しながら構築されたマウンドであることが判明した。

3) SD-051 溝跡

溝跡1条を検出した。土塁状マウンドの南辺下の法り面を切って構築され、囲むように曲がり途中で切れている。また、埋土中にかかわらけ小片が混入し前述土塁状マウンドを切っている事から、溝跡の方が新しい。

4) SX-015 土壘状遺構トレンチ

北側の土壘状遺構のトレンチ掘り 4 本は、現代の表土を除去し、遺構の形状を知るために精査を実施した。トレンチの表土直下から土器が多く出土したため、この部分だけ (A1 層) を少し掘り下げた。その結果すべてがかわらけであった。今回のトレンチ調査では東西から馬の背の型で盛り上がり、南北に伸びる形状になっていることがわかった。

5) SX-015 土壘状遺構

南側の土壘状遺構の調査区は、以前住宅が建っていた所で、基礎跡や地盤改良等による攪乱でほとんどが壊されていた。唯一基底部付近の各1層を検出したので精査をした。ただし、北側調査区断面は残存しており、幸いにも断面観測は可能であった。埋土堆積状況は人為的に土を軽く版築しながら積み重ねている事が確認できた。これを見ると、堆積土II層 (11~12 世紀前半) と堆積土IIIa層・IIIb層 (10 世紀後半以前) の旧表土を掘り込んで構築されており、SX-014 土壘状マウンドと全く同じ掘り込み面であった。また、基底部付近の各層からもかわらけが出土していることから、同時期に構築された遺構と推測する。

6) SK-180、SK-181 土坑跡

土坑跡 2 基を検出した。形状は歪で、簡素な造りである。埋土堆積状況は、2 層 (SK-180)、3 層 (SK-180) に大別し、2 基の A 層から一辺が約 1.5cm~約 2.0cm と細かく割れたかわらけが大量に堆積し出土した。今回の調査でかわらけの胎土色は、灰白色から橙色を呈し 3:7 の比率で出土している。この土坑 2 基から出土したかわらけは、すべてがロクロ成形で胎土色は灰白色のみであった。また、混入する砂粒の量が多く焼きの甘い脆い土器であった。この土坑跡は、最初は何かの目的で掘られたものだが、途中から土器の捨て場として使われたと思われる。

7) SX-016 池跡 (推定)

この遺構も以前住宅が建っていた所で、基礎跡や地盤改良等による攪乱でほとんどが壊され下層の 2 層しか検出できなかった。しかし、北側調査区断面は残存しており、幸いにも断面観測はできた。埋土堆積状況は自然堆積で、西側立ち上がり面に地山明黄褐色土 (粘土質) を貼り付けているのが観察できた。形状は上端が緩やかに南東に湾曲し、底面は西から東に徐々に緩やかに下がり池跡の可能性が考えられる。また、埋土中には、多くのかわらけが混入し、土壘状マウンド、土壘状遺構と全く同じ掘り込み面であることから同時期に構築された遺構と考えられる。しかし、ほとんどが東側調査区外に広がっており、詳細は不明である。

8) 出土遺物

本遺跡からは、土師器甕、あかやき土器坏・甕、かわらけ、土製品等が出土した。

これまでの調査では、ロクロかわらけと手づくねかわらけの比率がほぼ5:5の割合で出土していたが、今回の調査区からは、その比率が9:1と圧倒的にロクロかわらけの割合が多く、ほとんどの胎土の色調は灰白色であった。さらに、土師質土器が3点出土している。これは、12世紀第2四半期(20年代～)の比爪館跡から出土する古い段階の土器である。平泉でも出土しているが、寡少な資料である。

比爪館跡の調査は第29次調査まで実施してきたが、土塁状マウンド、土塁状遺構、池跡(推定)は初めての検出遺構である。しかし、今回の調査だけでは構築目的、性格などの資料は見出すことは出来なかった。今後、第30次調査にかかる周辺隣接地が調査されることで、新発見が得られるよう期待したい。

<参考文献>

- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2011 「下川原Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書」
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2000 「鎌館跡発掘調査報告書」
盛岡市教育委員会 1999 「前野遺跡発掘調査報告書」
平泉町教育委員会 1995 「平泉遺跡群発掘調査報告書」
紫波町教育委員会 1992 「比爪館 第9・10次発掘調査報告書」
紫波町教育委員会 2010 「町内遺跡発掘調査等事業報告書」
羽柴 直人 2010 「東日本初期武家政権の考古学的研究」

写 真 图 版



調査区北側 全景（南から）①



調査区南側 全景（南から）②



SI-070 竪穴住居跡全景構築土 (西から)



SI-070 竪穴住居跡 全景 (西から)



SI-070 竪穴住居断面ベルト① (東から)



SI-070 竪穴住居断面ベルト② (南から)



SI-070 竪穴住居断面ベルト③ (北から)



SI-070 住居内 pit SP-10 断面 (南から)



SI-070 住居内 pit SP-10 完掘 (南から)



SI-070 住居内 遺物出土状況



SX-014 土塁状マウンド現況 (南から)



SX-014 土塁状マウンド表土除去 (南から)



SX-014 土塁状マウンド トレンチ南面 断面



SX-014 土塁状マウンド トレンチ西面 断面



SX-014 底面からの遺物出土状況



SD-051 溝跡 全景 (西から)



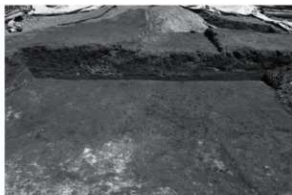
SD-051 溝跡 断面 (東から)



SX-014 土塁状マウンド復元作業風景



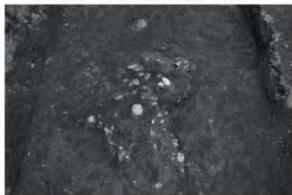
SX-015 土塁状遺構 全景 (南から)



SX-015 土塁状遺構 断面 (南から)



SX-015 土塁状遺構 遺物出土状況



SK-180 土坑跡 遺物出土状況 (南から)



SX-016 池跡 (推定) 全景 (北から)



SX-016 池跡 (推定) 構築土、全景 (北から)

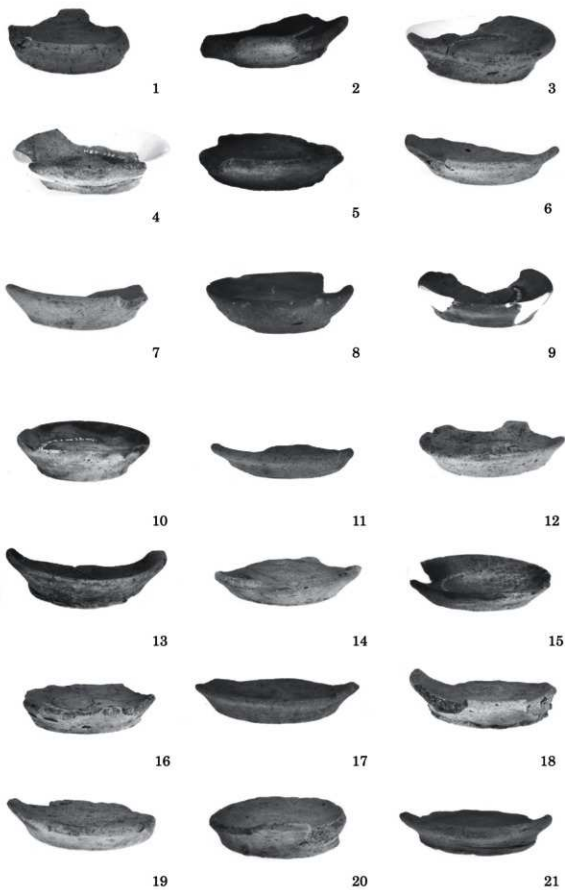


SX-016 池跡 (推定) 遺物出土状況①



SX-016 池跡 (推定) 遺物出土状況②

第4図版 土塁状遺構、池跡 (推定)、土坑跡全景、断面、遺物出土状況



第5图版 出土遺物①



22



23



24



25



26



27



28



29



30



31



32



33



34



35



36



37



38



39



40



41

抄 録

ふりがな	ひづめだてあと だいさんじゅうじはくつちょうさほうこくしょ							
書名	比爪館跡 第30次発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	紫波町埋蔵文化財調査報告書2012							
シリーズ番号								
編集者名	鈴木賢治 花籠博文							
編集機関	紫波町教育委員会							
所在地	岩手県紫波郡紫波町日詰字下丸森24-2							
発刊年月日	西暦2013年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ひづめだてあと 比爪館跡 第30次	いわてけんしほぐん 岩手県紫波郡 しほちうみなみひづめ 紫波町南日詰 あしはしのみず 字箱清水187-1	03321	LE77-0087	39° 32' 03"	141° 09' 45"	20120702～ 20120731	275㎡	個人住宅新築 (建替)建設の 為
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
ひづめだてあと 比爪館跡 第30次	集落跡 館跡	平安時代 (9c～10c) 平安時代中期 ～末期 (12c)	堅穴住居跡 土塁状遺構 土塁状マウンド 池跡(推定) 溝跡 土坑跡 柱穴	土師器 甕 あかやき土器 (坏、甕) 土製品 かわらけ	吾妻鏡記載 奥州藤原氏関連遺跡			

比爪館跡

第30次発掘調査報告書

個人住宅建設に伴う緊急発掘調査

2013年3月

編集・発行 紫波町教育委員会

〒028-3305 岩手県紫波郡紫波町日詰字下丸森 24-2

TEL 019-672-3362 FAX 019-672-1553

印刷 有限会社 紫波印刷

〒028-3313 岩手県紫波郡紫波町星山字樋ノ口 90-8

TEL 019-672-3104 FAX 019-672-3105
